

安曇野市自転車活用推進協議会 会議概要

1	審議会名	安曇野市自転車活用推進協議会（第4回）
2	日 時	令和4年1月17日 午前10時00分から午前11時47分まで
3	会 場	会議室 305
4	出席者	益山代利子、平林功、二木正之、細野脩一、太田和男、土屋征寛（代理出席）、 前田正一、松島義一、平林裕司、矢口太輔、横田耕太郎
5	市側出席者	高嶋政策部長、丸山政策経営課長、赤沼政策経営課長補佐、高橋主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人0人	記者0人

協 議 事 項

1	開会
2	会長挨拶
3	議事
(1)	報告事項
ア	安曇野市自転車活用推進計画（案）パブリックコメントの結果について
[趣旨]	提出された意見、及び市の考え方の原案を提示して説明
[質疑応答]	
(全般)	
・	市の職員の移動の際にリサイクル自転車を利用し、リサイクルであることと販売している旨、販売する旨などをPRするプレートなど付けたらどうか。
→	すぐに売れてしまうと聞いている。ストックがあるようなら検討する。
・	リサイクル自転車を何台か購入したが、あまり良い製品ではなかった。
→	確認する。
・	自転車の健康に対する効果は、「〇kg 痩せました」のように具体的にPRすべきではないか。
・	近時は個人情報保護の風潮なので難しいだろう。
→	PR方法は検討する。
(反射材の普及について)	
・	反射材やリアライトは法令の義務であり、サイクリストは当然装備する。どうしても計画に書くなら、サイクリスト向けと一般向けの記述が必要だ。
・	車両の反射材は法令の義務である。それに加えて「反射材を身に着ける」とまでは書く必要がないのではないか。
・	市内の事故は出合頭の衝突が多い。反射材の普及は、課題と対策がアンマッチでは

ないか。

→ご意見をふまえ、反射材については追記しないこととしたい。その旨、意見提出者に回答する。

イ 安曇野市自転車活用推進計画（成案）について

[趣旨]

変更部分を中心に説明

[質疑応答]

（明科方面のコースについて）

- ・（前回の協議会では記載見送りとの事務局回答であったが）やはり、明科方面について記載した方がよいのではないか。長峰山など観光資源もあるので活用すべきである。
 - ・わざわざ明科は外したのか。そういう経過があるのか。
- 特になく考えられる。ただし、河川管理道路はコースとするのは難しい。観光部局で検討しているモデルコースの方で検討するかたちとしたいがいかがか。
- ・たしかに今までの議論は観光についてであったが、ABCの3コースも健康と言いながら観光要素もあるのではないか。何か別に載せられない理由があるのか。
- 承知した。設定した3コースの活用と今後の展開エリア（明科）として追記したい。

（サイクリングコースについて）

- ・堀金道の駅をスタートとゴールに設定しなければならないのか。しゃくなげの湯やビレッジ安曇野を起点にすれば風呂も利用できる。そのような構想は、この計画には含まれていないのか。
- 含まない。堀金道の駅が起点なのは、中核となる「やまびこ自転車道」に面しているからという側面もある。
- ・松本空港のランニングコースのように、どこから始めてもよいという考え方ではいけないのか。スタートとゴールを決めてしまうのは避けた方がよい気がする。
 - ・「1つの例」という理解でいいのか。
- 「必ず堀金道の駅から始めなければならない」というものではない。1つの例である。
- ・であれば、地図に「1つの例」として記載してもよいのではないか。
- この地図はネットワーク路線である。市民に周知するサイクリングコースの地図には、公共施設の駐車場（ANCアリーナ、しゃくなげの湯）などを落とし込んでいきたい。

（自転車通勤について）

- ・自転車通勤を勧めようという考え方はよいが、ここに「自転車通学」が含まれていないのには違和感がある。
- この施策は、温室効果ガス削減のためのものである。そもそも自動車に乗らない子どもをターゲットに、自転車通学を勧める旨の記載することはできない。
- ・人によって、親が駅まで自動車で送迎するような例もあると思う。ここには「通学」を入れることが望ましい。
- 意見の趣旨をふまえて、違和感がない記載方法を検討する。

(マウンテンバイクコースについて)

- ・この地図掲載の趣旨は？
- 庁内で意見を募った際の指摘である（令和3年11月17日部長会議）。
- ・位置図である旨、供用開始時期の明記をしていただきたい。

(次期計画について)

- ・今期の計画自体はよいと思う。次期計画は数値目標などを盛り込んでほしい。
- 今期の計画は、自転車の活用可能性を周知するものである。計画の進捗や市民意識の醸成をふまえて、次期計画の改訂につなげたい。

[結論]

協議会では、案について次のような意見があったことを確認した。

- (1) 今後の展開エリアということで、明科地区のサイクリングコースに言及するのがよいのではないか。
- (2) サイクリングコースの地図には、公共施設の駐車場などを落とし込んだ方がよい。また、堀金道の駅がスタート・ゴールであるのは1つの例である旨を書いた方が望ましいのではないか。
- (3) 自転車通勤の促進に関し、「自転車通学」を加えることが望ましい。
- (4) マウンテンバイクコースについては、位置図である旨及び供用開始時期を明記した方がよい。
- (5) 時期の計画には、数値目標を盛り込むのが望ましい。

(事務局より)

- ・4回の協議会。積極的な意見をいただいた。
- ・自転車のよるまちづくりは、前市長の施策だが、太田市長もマウンテンバイクコースやアウトドアスポーツなどに力を入れて進めているところである。
- ・仕上げていただいた計画にそって、まちづくりを進めていきたい。委員の皆様にあっても、自転車の普及拡大に協力いただきたい。